

SITA

情報理論とその応用学会ニューズレター

第 22 回情報理論とその応用シンポジウム (SITA'99) 開催報告.....実行委員長 荻原 春生 (長岡技科大)
 SITA'99 ワークショップ報告 古賀 弘樹 (筑波大), 広田 修 (玉川大)
 SITA'98 奨励賞
 1999 年度のワークショップ・講演会 (企画事業) 報告
 山口 和彦 (電通大), 鈴木 譲 (大阪大学)
 「第 3 回情報論的学習理論ワークショップ」論文募集
 国際会議のお知らせ
 SITA ニューズレターの PDF 化ならびに新配布方法の試行について
 情報理論とその応用学会 2000 年度役員
 SITA ロゴマークの公募について

第 22 回情報理論とその応用シンポジウム (SITA'99) 開催報告

実行委員長 荻原春生 (長岡技術科学大学)

SITA99 は、以下のように開催されました。

- 開催期間：平成 11 年 11 月 30 日 (火) ~ 12 月 3 日 (金) (11 月 30 日午後 情報理論研究会)
- 開催場所：新潟県南魚沼郡湯沢町 NASPA ニューオータニホテル
- 宿泊施設：新潟県南魚沼郡湯沢町 NASPA ニューオータニホテル
- 発表論文数：227 件。参加者：355 名 (一般 162 名, 学生 182 名, 賛助会員による無料参加者 11 名)
- 受付方法：WWW による参加申し込み 311 件, F A X 等による参加申し込み 44 件。WWW による発表申し込み 205 件, F A X 等による発表申し込み 22 件

今回は、前回から試行された WWW による参加登録・発表申込みに加え、各種アナウンスも原則 WWW のみによることとし、事務局の負担軽減をはかりましたが、特に問題はみられませんでした。

会場については、温泉地が良いとの強い要望があり、また、300 名を越す参加者、並列 6 セッション (当初の予定。実際は論分数が多く 7 セッション) 構成の規模を実現できるところが、新潟県内では限られたところとなり、交通の便、シーズンオフを考慮した割安な宿泊費等を考慮して決定しました。良い設備のホテルを、割安な料金で使えたのではないかと思います。

アドバンスプログラムのアナウンスを宿泊申込み締切の前に行ってほしいとの要望が、例年と同様に寄せられました。論文募集時にお知らせした締め切りで、厳格に論文原稿受付を締め切れれば、それは可能でした。しかし、それ

では、大学会と同じになり、SITA の手作りの伝統になじまないこととなります。そこで、印刷のために要求される時間のみを残し、なるべく会員の要望に沿うということにすると、アドバンスプログラムの確定が遅れ気味となります。また、宿泊締め切りも、割引値段ということで、あまり遅くすることができません (これについても、実態は、随分、遅くまで、割引値段で宿泊申込みを受け付けました)。このような事情をご理解ください。

特別講演として、SITA とは別分野の以下の 3 件の講演を御願いました。

1. 「動物の生態行動と気象予測」(株) 酒井無線 代表取締役 酒井興喜夫氏
2. 「モデル海底熱水噴出環境でのオリゴペプチド生成」長岡技術科学大学 教授 松野孝一郎氏
3. 「言葉と人間 - M. ハイデッカーの問うたこと - 」京都工芸繊維大学 助教授 秋富克哉氏

2. と 3. は大学の研究者によるものですが、1. は市井の研究者によるものです。SITA の研究は、ほとんどのものが理論的根拠をもつものですが、1. の研究は徹底的な観測と経験則にのみよるものです。この方による降雪予測は、毎年、秋になると新潟県の新聞にとりあげられ、話題となるものです。偶然に当たったに過ぎないとの批判もありますが、この冬の新潟県の降雪状況は予想のとおりでした。講演では、気象予測についてのみお話をされましたが、地震予測もできそうだとのことでした。

開催にあたり、プログラム委員長 小松尚久氏 (早稲田大学)、総務担当 中川健治氏 (長岡技術科学大学) をはじめ、実行委員会、プログラム委員会のメンバ各位に大変なご協力をいただいたことを感謝いたします。

SITA'99 ワークショップ 報告

SITA'99 では、「データ圧縮における FV 符号の符号語長分布を調べる」、「量子情報と暗号科学」、「ITS における情報通信」の 3 テーマについてワークショップが開かれました。それぞれ、古賀弘樹先生（筑波大）、広田修先生（玉川大）、河野隆二先生（横浜国大）がオーガナイザとして各ワークショップを企画されました。ここでは、その内容の一部をご紹介します。

(1) 「データ圧縮における FV 符号の符号語長分布を調べる」

従来、データ圧縮符号の性能は平均符号語長という形で評価され、可変長符号の平均符号語長が情報源のエントロピー以上になることは、ほとんどの情報理論の教科書で取り扱われている。このワークショップでは、「可変長符号の符号語長の分布」という新しい視点から、可変長データ圧縮符号の性質を解析することを試みる。漸近的な意味でエントロピーを達成する任意の無歪データ圧縮符号の符号語長の分布が、情報源の性質に依らずに自己情報量の分布と一致することなど、従来未知であったデータ圧縮符号の基本的性質を明らかにした。

(2) 「量子情報と暗号科学」

SITA'99、二日目の晩、恒例のワークショップのテーマとして「量子情報と暗号科学」が開催された。このワークショップは、玉川大学の広田修先生の企画によるもので、以下の内容構成で計画された。

量子情報理論の動向	臼田 毅先生 (名工大)
境界領域における研究手法	
世界の研究動向紹介	大崎 正雄先生 (玉川大)

「境界領域における研究手法」については、講演を依頼していた研究者との時間的な調整が取れず、講演が実現できなかったことは残念であった。

臼田先生による「量子情報理論の動向」では、近年注目を集めている量子計算や量子暗号の原理を理解するための基礎である量子情報理論の数理体系が、要所を押さえながら簡潔に説明された。この中で、量子情報理論を理解する第一段階は量子ビットと古典ビットの違いを明確にすることであることが強調された。

2 番目の大崎先生による「世界の研究動向紹介」では、量子情報科学に関する国際会議の開催状況が紹介され、欧米での関心の高さが強調された。また、これらの会議の先駆けとして日本（玉川大学）主催の国際会議（QCM: Quantum Communications and Measurement）が 1990 年から 4 回開催されており、第 5 回目が 2000 年 7 月にイタリアであるので、積極的に参加して欲しいとの発表がなされた。

このあと、メインテーマの量子暗号について玉川大学の山崎浩一先生が現状とこれから工学的な見地より進むべき方向について私見を述べられた。特に山崎先生は量子暗号を広く実用化していくためには従来の暗号理論との連携が不可欠であることを強調された。

本ワークショップには、従来の情報理論、符号理論、暗号理論、通信理論等の研究者多数に参加していただいた。なかでも、海外から参加している研究者からの質問やコメントが多数あり、会場は大いに盛り上がりを見せた。また、「量子暗号においてインターフェースにおける安全性に問題はないのか」というような、本質的な質問もあり、必ずしも量子情報の専門に携わっていない研究者も、その動向には注視している様子が伺えた。

SITA'98 奨励賞

SITA'99 のバンケットの席上で、SITA 奨励賞 (SITA'98) の発表と表彰が行われました。受賞された方のお名前と論文タイトルは以下のとおりです（敬称略）

臼田 毅	（名工大）	3 元線形従属信号の量子通信路容量の超加法性
大濱 靖匡	（九州大）	一次元区分線形写像を用いた FF 型乱数生成アルゴリズム
菊地 俊介	（早稲田大）	PPM 多重チャネルにおける動的帯域割り当て制御方式
小嶋 徹也	（電通大）	An Algebraic Approach to Blind Source Separation
馬場 健介	（東京大）	プロバイダ側での不正行為を考慮したエージェントを設けない不正ユーザ追跡法

1999年度のワークショップ・講演会（企画事業）報告

1999年度企画理事

山口 和彦（電気通信大学）

鈴木 譲（大阪大学）

1999年度に行なわれた企画事業は以下に示すように5件と大変盛況になりました。これも理事会企画メンバーの努力の成果と考えています。いいえ、正直にいえば、1998年度に行なう予定の企画2件の準備が間に合わず99年度にずれ込んでしまったためであります。もちろん、これだけの企画が実現したのは企画メンバだけでは無理なことで、それよりも、それぞれの事業にご協力いただいた皆様のおかげにほかなりません。この報告のまず始めに感謝の意をあらわしたいと思います。

（1）シャノン理論50周年記念ワークショップ - シャノン理論の回顧と展望 - は、98年がシャノン理論50周年に当たったのを機会に企画されました。山梨県石和町のホテル古柏園を利用し、1月22日（金）～1月24日（日）IEEE IT東京支部との共催で行なわれました。日本学術新興会のドイツ人特別招聘研究者であるビーレフェルト大学アルスウェーデ教授を交え、20件の講演を、3日間かけてじっくりと行なわれました。発表は英語で行われ、予稿も英文で作成されています。

（2）「電子透かし技術とデジタル著作権」講習会は、2月10日（水）東京大学生産技術研究所にて行なわれました。電子化された情報の著作権や、電子透かし技術が注目されているのを機に、法律、技術、攻撃、将来展望の4つの話題を扱った講習会です。資料を有料とし、参加費を無料としています。会場定員いっぱいの80人の参加者がありました。

（3）「大学生・大学院生のための暗号に関する講義」は、3月4日に行なわれました。ソウル国立大学招聘教授李晩榮先生が日本に滞在された機会に学生を対象とした講義を行なってよいとお話から企画しました。李先生は、現在76歳ですが、三星セミコンダクタなど韓国の有力企業の社長を歴任され、数々の英語の著書を出版される等、韓国における情報通信分野の文字通りのリーダーです。李先生には、日本語で、ユーモアあふれる講義を行なっていただきました。参加者は、首都圏の大学院生を中心とした46人でした。

（4）Prof. Hagenauer による「ターボ符号」講習会は3月11日、李先生の講義の1週間後に行なわれました。会場費用とアクセスの利便性を考えこれらは、（2）と同様東京大学生産技術研究所の会議室を利用させていただきました。ターボ符号は現在誤り訂正符号の理論とその実用化において最もホットな話題であり、これまでも何度かSITAの企画の中でも取り上げていたのですが、今回はハーゲナウアー教授が来日される機会に十分時間をかけて

講義いただける講習会を企画しました。窮屈になりましたが91人の参加がありました。

（5）情報論的学習理論ワークショップ (IBIS'99) は、8月26日（木）から27日（金）まで静岡県修善寺町のラフォーレ修善寺で開催されました。IBIS'98もそうでしたが、この1泊2日という少しハードな日程の中で、皆さん夜11時ぐらいまで、2日目も夕方7時ぐらいまで大変熱心に議論しているのが印象的でした。今回からは、招待講演だけでなく、論文を公募し、査読によってオーラルポスターの振り分けが行われました。招待講演はJ. Rissanen 博士の“Information in Data, Universal Modeling, and Generalized Mnimax Bounds”を含む6件が行われました。この他、特別セッション「モデル選択と知識情報処理の将来」と題して、7件の講演が英語で行われました。この特別セッションでは、consistency, stochastic complexity, alternative approaches という3トピックスについて、Rissanen 博士を交えて、活発な議論がなされました。AICからは柴田（慶大）、北川（統数研）、MDLからは韓（電通大）、山西（NEC）の各氏がコメンテータとして議論を引っ張っていました。これほどの豪華メンバーが集ったのだからもう少し話を聞きたいというようにも思われました。全体として、かなり充実したワークショップになりました。

それぞれの企画がその期待に合わせた特徴ある形で実現できたと思います。石和のワークショップは参加者こそ限られていましたが、SITAのメンバが集まり、じっくり討議ができたという点で20年前の発祥にもつながるワークショップだと考えます。学生を主対象とした講習会をはじめの試みでしたが成功であったのはもちろん、いろいろな可能性が感じられました。年々SITAのシンポジウムの規模が大きくなる中、こうした形のワークショップをこれからも有効に活用する必要があるでしょう。もしSITAのメンバの方で具体的な計画や、よいヒントがあればぜひ企画メンバにお知らせ下さい。残りの（2）～（5）についてはSITA会員以外の参加者の割合も多い割合となりました。これは学会より補助をいただいた上で行なった企画なので多少気になる点です。ただ、扱ったテーマはSITAに適合しているはず。そこで参加費・資料代の差別化や、情報理論とその応用学会や、情報理論とシンポジウムの紹介、会員の勧誘をなども実験的に行ないました。会場の設定、資料の準備なども含めて、毎回試行錯誤するはめになりましたが、これは企画事業の性格上やむを得ないのではないかと思います。

以上

「第3回情報論的学習理論ワークショップ」論文募集

(Information-Based Induction Sciences : IBIS2000)

主催：情報理論とその応用学会

共催：IEEE IT Japan Chapter

協賛：人工知能学会，日本神経回路学会，計測自動制御学会，電子情報通信学会情報理論研究
専門委員会，情報処理学会，システム制御情報学会，日本物理学会

日時：2000年7月17日(月)，18日(火)

会場：ラフォーレ修善寺（静岡県伊豆修善寺）

～開催趣旨～

本ワークショップは情報理論とその応用学会主催，IEEE IT Japan Chapter 共催の特別企画であり，情報理論，統計学，統計物理学，計算統計学，機械学習，ニューロ，応用（画像，言語，複雑系，生体系，データマイニング，金融工学 etc）などの緊密な結び付きに焦点をあてて，知識情報処理の新しい方向性を模索する，学際的なものです。

一昨年，昨年と開催された IBIS は幅広い分野から多くの参加を頂き，様々な視点から学習についての活発な意見交換が行われました。IBIS2000 もこの型に囚われない自由な雰囲気を大切に，さらに多くの方々とのより深い意見交換が行えるよう，引き続き幅広い分野からの一般講演を募集します。

また，今年は国内の知識情報処理研究に新しい潮流を生み出すべく，モンテカルロ法，Belief Propagation，平均場近似法など近年進展の著しい大規模確率モデルの具体的な計算法を核にした特別セッション「実践的バイズ法」も企画しています。多くの皆様の参加と発表をお待ちしております。

なお，本ワークショップの趣旨に沿った論文特集の企画を人工知能学会論文誌に予定しております。IBIS2000 で発表された発表の中で特に質の高いものは人工知能学会論文誌特集号に招待論文として推薦される場合もありますので両企画とも奮って御応募下さるようお願い致します。

(特集号企画の詳細は後日あらためてホームページ，人工知能学会誌などを通して御連絡いたします。)

1. 招待講演（講演者敬称略）

- DJC MacKay (Cambridge 大) 「Error-correcting codes based on sparse graphs」
- 尾形 良彦 (統数研) 「Evaluation of high dimensional Bayesian models: Two computational methods」
- 永田 昌明 (NTT) 「自然言語処理は機械学習の実験場になる？—構文解析，テキスト分類，音声対話—」
- 渡辺 治 (東工大) 「適応型サンプリングアルゴリズムとブースティング技法」
- 渡辺 澄夫 (東工大) 「学習と特異点論」

招待講演者の方々には，理論的なテーマのみならず，統計的手法を用いた地震予測，自然言語処理等の幅広いテーマについても講演して頂く予定です。

講演題目は変更される可能性もあります。

2. 一般講演

(a) 募集要項

- 一般セッション（英語，日本語両方可）

オリジナルな論文はもちろん，その分野のサーベイ的論文で他分野の参加者との意見交換のベースとなるものも歓迎。

〔投稿対象分野〕

知識情報処理における統計的推測（モデル選択規準，バイズ推定，予測理論，情報幾何学，ユニバーサル符号化等），機械学習，学習理論，統計力学的学習，計算量統計学，複雑さの理論（Kolmogorov Complexity, Stochastic Complexity 等），各種表現系（ニューラルネットワーク，ベイジアンネット，Graphical Models 等），進化アナロジーによる最適化・学習等，およびそれらの応用（パターン認識，画像処理・理解，自然言語処理，ロボティクス，データマイニング，金融工学，時系列解析，生体情報処理等）

- 特別セッション「実践的ベイズ法」(講演, 予稿とも英語)
(コーディネータ: 上田修功 (NTT))

～企画趣旨～

ベイズ学習はモデル構造自身も推定できるという魅力的な枠組みとして古くから認知されていたものの、困難な積分計算を伴うという実用上の問題を抱えていました。この問題に対し、近年、マルコフ連鎖モンテカルロ法、平均場近似、variational 近似等の近似解法が考案され、ベイズ学習の“実用化”が加速されつつあります。本特別セッションでは、この“実践的ベイズ学習”の理論、アルゴリズム、応用に関する論文を募集し、幅広い観点からの活発な議論を期待しています。尚、本セッションでは、本分野の有力な研究者であり、最近では特に誤り訂正符号への応用で卓越した業績を残されている DJC MacKay 博士 (Cambridge 大) の招待講演も企画しております。

[投稿対象論文]

モンテカルロ法, Belief Propagation, 平均場近似法, 種々の EM アルゴリズムなど確率モデルに用いられる具体的計算法に関する論文 (理論, 応用問わず)。

一般セッション・特別セッションとも応募論文は情報理論, 統計学, 統計物理学等に基づく客観的な評価を基本とした上記分野の理論的研究あるいは実験的研究に関するものを特に奨励致します。両セッションとも応募論文はプログラム委員会で査読され採択されたもののみが発表出来るものとします。

(b) 応募方法

- 題目, 著者名, キーワード (5 程度) を含む A4 判 2 枚程度の概要 3 部を下記送付先に郵送下さい。
- 概要と共に連絡票として, 題目 (日本語の場合は英語タイトルも), キーワード, 希望セッション (一般/特別), 発表言語 (日本語/英語), 著者名, 所属, 連絡先 (住所, TEL, FAX, E-mail) を記入した A4 判 1 枚を同封の上 (封筒の表に「IBIS 講演応募」と朱筆下さるようお願いいたします), E-mail でも同様の情報 (概要の PS ファイルも含めて) を送付先にお送り下さい。
- 採択された場合は予稿集の形式でカメラレディ原稿 (6~8 ページの予定) を提出していただきます。
- 採択論文数によってはポスターセッションに振り分ける場合もありますのであらかじめ御了解下さい。

(c) スケジュール

論文応募締切: 平成 12 年 4 月 14 日 (金) 必着
採否通知: 平成 12 年 5 月 15 日 (月)
カメラレディ原稿締切: 平成 12 年 6 月 5 日 (月)

3. 送付先及び照会先

村山 立人 東京工業大学大学院総合理工学研究科
知能システム科学専攻 樺島研究室
〒226-8502 横浜市緑区長津田町 4259
E-mail: ibis-sec@fe.dis.titech.ac.jp
URL: http://kaba.fe.dis.titech.ac.jp/~ibis2000

4. 実行委員, プログラム委員

実行委員長 樺島 祥介 (東工大)
実行委員 鈴木 譲 (阪大)
プログラム委員長 麻生 英樹 (電総研)
プログラム委員 伊庭 幸人 (統数研), 上田 修功 (NTT), 田中 利幸 (都立大),
春野 雅彦 (ATR), 村田 昇 (理研), 本村 陽一 (電総研),
山西 健司 (NEC)

ワークショップについての情報は, ホームページでも公開しております。最新の情報は,

<http://kaba.fe.dis.titech.ac.jp/~ibis2000/>

をご参照下さい。

5. その他

参加費は

一般 (主催, 共催学会員) 18,500 円
一般 (主催, 共催学会員以外) 19,500 円
学生 14,000 円

(宿泊費・予稿集代・食事代込) を予定しております。参加申込方法の詳細は後日, お知らせ致します。

国際会議のお知らせ

以下のご案内する内容につきましては、変更になっている場合もありますので、ご自身でのご確認をお願い致します。

ISITA2000

日時 2000 年 11 月 5 日 – 11 月 8 日
場所 Sheraton Waikiki Hotel, Honolulu, Hawaii
URL <http://isita2000.soft.iwate-pu.ac.jp>
原稿 締切終了 (2000 年 3 月 15 日)

2000 IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems (IPACS2000)

日時 2000 年 11 月 5 日 – 11 月 8 日
場所 Sheraton Waikiki Hotel, Honolulu, Hawaii
URL <http://www.mk.ecei.tohoku.ac.jp/ISPACS2000>
原稿 締切終了 (2000 年 3 月 15 日)

The 3rd International Symposium on Wireless Personal Multimedia Communications (WPMC'00)

日時 2000 年 11 月 6 日 – 11 月 8 日
場所 The Imperial Queen's Park Hotel, Bangkok, Thailand
URL <http://www.tc.ait.ac.th/wpmc.htm>
原稿送付先 Telecommunications Program,
Asian Institute of Technology,
P.O. Box 4, Klong Luang 12120, Thailand.
Email: telecom@ait.ac.th
締切日 2000 年 6 月 1 日 (Extended Abstract, 800 ワード)

GLOBECOM 2000

日時 2000 年 11 月 27 日 – 12 月 1 日
場所 San Francisco, California.
URL <http://www.globecom2000.com/daireg/globecom2000>
連絡先 Email: admin@donanderson.com
原稿 締切終了

2000 IEEE International Conference on Personal Wireless Communications (ICPWC'2000)

日時 2000 年 12 月 17 日 – 12 月 20 日
場所 Grand Kakayita Sheraton Hotel, Hyderabad, India
URL <http://www.citr.ece.uvic.ca/icpwc2000>
原稿送付先 Dr. Rajamani Ganesh
Network Planning and Engineering
GTE Laboratories Inc.
40 Sylvan Road
Waltham, MA 02451-1128 USA
Tel: +781-466-3275
Fax: +781-466-2846
Email: rganesh@labs.gte.com
締切日 2000 年 6 月 15 日 (Summary, 300 ワード)

IEEE Infocom 2001

日時 2001 年 4 月 22 日 – 4 月 26 日
場所 Hilton Anchorage Hotel, Anchorage, Alaska
URL <http://www.ieee-infocom.org/2001>
原稿送付方法 Web による (see above Web page)
締切日 2000 年 7 月 5 日 (IEEE Standard Paper, 最終原稿と同一)

The 2001 IEEE International Conference on Communications (ICC2001)

日時 2001 年 6 月 11 日 – 6 月 15 日
場所 Helsinki, Finland
URL <http://www.icc2001.com>

SITA ニュースレターの PDF 化ならびに新配布方法の試行について

編集担当理事

SITA のニュースレターは No.22 より電子化され、主にメーリングを通じてお送りしてきました。しかしながら、お送りしていたものは、 $\text{\LaTeX}$ のファイルであったために、それぞれの計算機環境によって、表示結果が微妙に異なっていたり、場合によっては表示できないなどの問題点を抱えておりました。このため、郵送も併用せざるを得ない状況が続いてきておりました。また、ニュースレターに図面や写真を入れることが困難でした。

近年のインターネット関連技術の進展にともない、Web ブラウザによって、図や写真の入った文書が容易に表示できるようになってきました。これを受けて、ニュースレターを従来の $\text{\LaTeX}$ ファイルの配布方式から、PDF ファイルの配布方式に変更したいと考えております。

この場合、図や写真が含まれた PDF ファイルのサイズはかなり大きくなりますので、メーリングリストを通じてお送りする方式には適さなくなります。そこで、メーリングリストでは、新しいニュースレターが発行されたこととアクセスして頂くホームページの URL (いわゆるインターネットアドレス) をお知らせするにとどめ、会員各位のブラウザ (インターネット エクスプローラやネットスケープ ナビゲータなど) でニュースレターを閲覧して頂く方式の試行を開始したいと思います。

SITA ニュースレターの閲覧用のホームページの URL は、

<http://sita-nl.ics.nitech.ac.jp>

を暫定的に使用致します。ここには最新のニュースレターだけではなく、No.22 以降のバックナンバーも置かれています。

一度、このホームページにアクセスして頂き、ニュースレターが閲覧できることをご確認頂きたく存じます。

情報理論とその応用学会 2000 年度役員

1999 年度第 3 回理事会, 1999 年度通常総会, 2000 年度第 1 回理事会の決議を経て, 2000 年度役員は次の通り決定しました.

顧問

堀内 和夫	(早稲田大学)	辻井 重男	(中央大学)
Shu Lin	(ハワイ大学)	嵩 忠雄	(広島市立大学)
有本 卓	(立命館大学)	笠原 正雄	(京都工芸繊維大学)
平澤 茂一	(早稲田大学)	今井 秀樹	(東京大学)
田中 初一	(神戸大学)	原島 博	(東京大学)

会長

韓 太舜	(電気通信大学)
------	----------

副会長

中川 正雄	(慶應義塾大学)	小林 欣吾	(電気通信大学)
-------	----------	-------	----------

理事

無任所

森井 昌克	(徳島大学)	白木 善尚	(N T T)
-------	--------	-------	---------

庶務

笹瀬 巖	(慶應義塾大学)	山本 博資	(東京大学)
------	----------	-------	--------

会計

荒川 薫	(明治大学)	伊丹 誠	(東京理科大学)
------	--------	------	----------

編集

笹野 博	(近畿大学)	岡 育生	(大阪市立大学)
------	--------	------	----------

企画

鈴木 讓	(大阪大学)	横尾 英俊	(群馬大学)
------	--------	-------	--------

監事

畑 雅恭	(愛知県立大学)	金谷 文夫	(湘南工科大学)
------	----------	-------	----------

幹事

無任所

山田 功	(東京工業大学)	大濱 靖匡	(九州大学)
石丸 勝洋	(N T T)	稲葉 宏幸	(京都工芸繊維大学)

庶務

佐波 孝彦	(千葉工業大学)	有村 光晴	(電気通信大学)
-------	----------	-------	----------

会計

地主 創	(青山学院大学)	大槻 知明	(東京理科大学)
------	----------	-------	----------

編集

新家 稔央	(神奈川工科大学)	山里 敬也	(名古屋大学)
-------	-----------	-------	---------

企画

鴻巣 敏之	(大阪電気通信大学)	鎌部 浩	(岐阜大学)
-------	------------	------	--------

評議員

秋山 良太	(富士通)	今村 恭己	(九州工業大学)
岩垂 好裕	(多摩大学)	岩村 恵一	(キヤノン)
植松 友彦	(東京工業大学)	大橋 正良	(KDD)
岡本 栄司	(北陸先端科学技術大学院大学)	荻原 春生	(長岡技術科学大学)
金子 敏信	(東京理科大学)	河野 隆二	(横浜国立大学)
小松 尚久	(早稲田大学)	阪田 省二郎	(電気通信大学)
坂庭 好一	(東京工業大学)	鈴木 孝夫	(沖電気工業)
鈴木 秀夫	(東芝)	高田 豊雄	(岩手県立大学)
内匠 逸	(名古屋工業大学)	田崎 三郎	(松山大学)
塚田 啓一	(松下電器)	常盤 欣一朗	(神戸大学)
中野 幸男	(Hitachi Telecom (USA))	中村 勝洋	(NEC)
樋口 龍雄	(東北大学)	藤原 融	(大阪大学)
松嶋 敏泰	(早稲田大学)	丸林 元	(創価大学)
三浦 守	(岩手大学)	村上 篤道	(三菱電機)
森 真作	(日本工業大学)	山内 才胤	(大井電気)
山岸 篤弘	(三菱電機)	山口 和彦	(電気通信大学)
若杉 耕一郎	(京都工芸繊維大学)	V.K. Bhargava	(ビクトリア大学)
H. Vinck	(エッセン大学)	B.S. Vucetic	(シドニー大学)

SITA ロゴマークの公募について

【経過説明】

以前、本学会のロゴマークの公募を行いました。公募案内が主に学会内でしか配布されなかったため、応募作品が数点しかなく、採用に至りませんでした。一方、調査したところ、広くロゴの公募を行った場合に、200 点以上の応募があったという事例も分かりました。そこで、今回は下記のように、積極的に学会外へ「SITA ロゴマーク公募」の情報を流すことに致しました。

- 4/9 発売の『公募ガイド』（5月号）に、SITA ロゴマークの公募記事を掲載します。
- Web の HP (<http://hirosuke.sr3.t.u-tokyo.ac.jp/sita-logo.html>) に公募の詳細を掲載します。

【お願い】

「SITA ロゴマークの公募」をより多くの人に知ってもらいたいと思いますので、もし、近くに『デザイン』や『公募』に興味のある人がおられましたら、下記の SITA ロゴ公募情報をお伝え頂きたいと思います。また、Web の HP や雑誌などで、無料で公募案内を掲載できるところがありましたら、その情報を

情報理論とその応用学会

SITA ロゴマーク選定委員会宛

(E-mail: sita-logo@hy.t.u-tokyo.ac.jp)

にお知らせ下さい。よろしくお願い致します。

編集後記

ニューズレター第 34 号をお届けします。大変発行が遅れまして申し訳ございません。

第 33 号の発行以来、長く発行が遅れておりましたのは、ひとえに前任の担当理事である内匠の不幸によるものです。ここに深くお詫び申し上げます。

第 34 号以降では、Web ブラウザによってニューズレターの閲覧ができる方式をご用意致しました。これにより写真、図の掲載が可能となりましたが、残念なことに、掲載に適当な写真等を得ることができませんでした。次号以降では、写真ご提供等のご協力を賜り、紙面の充実を図ることができればと期待しております。

(内匠)

編集担当者

笹野 博 (編集理事)

〒 577-8502 東大阪市小若江 3-4-1

近畿大学理工学部電気工学科

Tel. 06-6721-2332 (ext.4301)

Fax. 06-6727-4301

E-mail sasano@ee.kindai.ac.jp

新池 稔央 (編集幹事)

〒 243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030

神奈川工科大学電気電子工学科

Tel. 0462-91-2331

Fax. 0462-42-6089

E-mail niinomi@ele.kanagawa-it.ac.jp

内匠 逸 (前編集理事)

〒 466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学知能情報システム学科

Tel. 052-735-5472

Fax. 052-735-5477

E-mail takumi@ics.nitech.ac.jp

岡 育生 (編集理事)

〒 558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

大阪市立大学工学部情報工学科

Tel. 06-6605-2779

Fax. 06-6690-5382

E-mail oka@info.eng.osaka-cu.ac.jp

山里 敬也 (編集幹事)

〒 464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学情報メディア教育センター

Tel. 052-789-2743

Fax. 052-789-3173

E-mail yamazato@nuee.nagoya-u.ac.jp

情報理論とその応用学会事務局
〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学 工学部 計数工学科
数理第3研究室内，山本博資 気付
Tel: 03-5841-6930 (直通), Fax: 03-5841-8605
E-mail: sita-office@hy.t.u-tokyo.ac.jp